令和４年度（2022 年度）第３回北海道紋別養護学校評議員会　議事録

１　日時

令和５年（2023 年）２月 14 日（火）10 時 30 分～12 時 00 分

２　場所

北海道紋別養護学校視聴覚室

３　出席者

（1）学校評議員

鍋　島　　博　様

小　倉　　勇　様

千　田　嘉　人　様

（2）学校職員

山﨑校長、高嶋教頭（本校）、福島教頭（分校）、西村事務長、杉原、黒川、米森、武田

４　議題

（1）令和４年度（2022 年度）学校評価について

ア　北海道紋別養護学校

イ　北海道紋別養護学校ひまわり学園分校

（2）学校運営協議会（コミュニティスクール）について

（3）令和５年度（2023 年度）学校経営方針（グランドデザイン）について

５　説明及び評議

（1）令和４年度（2022 年度）北海道紋別養護学校学校評価について、資料を基に高嶋より説明

（2）令和４年度（2022 年度）北海道紋別養護学校ひまわり学園分校学校評価について、資料を基に福島より説明

（3）学校運営協議会について次の２点について高嶋より説明

ア　来年度の学校運営協議会のメンバーについて、前回の学校評議員会の評議を受けて、本校の教育活動に多大な協力をいただいた２名を構成員に追加させていただいた。これまでは地域の方に支えていただくことが多かったが、来年度からは地域へ貢献できる学習に取り組んでいきたい。

イ　設置要綱を作成した。このような内容で学校運営協議会を組織していきたい。

（4）質疑応答（有・無）

ア　学校評価について

（評議員）自己評価なので、評価基準は人それぞれで、厳しく評価する人、印象に残っていることを評価する人など様々だと思う。厳しく物事を評価している人の意見を聞き取って改善することが大切である。

ヒヤリハットは蓄積と分析で終わらず、より踏み込んで全体共有することが重要である。文言も活用に重きを置くことが必要である。

（高嶋）評価を紙面上の評価として終わらせることではなく、改善点を来年度に生かしていく。

（山﨑）ヒヤリハットをとおして、事故の原因究明と今後の改善点を蓄積している。例えば、児童生徒の薬の飲み忘れがないよう、システム化をどのようにしていくのかなど。

また、学校では危機管理マニュアルを作成しているが、作成後は、より活用することができるよう、実際の訓練などの実践をとおして内容を改善している。

（評議員）ヒヤリハットは事故が起こる前のことなので、職員間で小さな事項の情報共有が大切である。

（評議員）パートナーティーチャー派遣事業は、管内の小中学校等に大変ありがたい取り組みである。予算面の課題があるのならば、なんとか確保し、各校からの要請に応えられるようにしてほしい。

（高嶋）関係機関と相談及び調整しながら、要請に応えていきたい。

（評議員）教職員がしっかりと学校経営を行っていることが評価から理解することができた。

評価にあった会議運営については、会議は目的をもって参加するべきである。また、会議でどのような内容が協議されるのかを事前に把握することも大切である。

（高嶋）会議の目的を明確化し、教職員が目的意識をもって会議に参加することができるよう意識を高めていきたい。

（評議員） 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。学園内でも戸惑いがあったが、学校のスピード感をもった対応や、随時の情報共有に対して評価をしている。感染症対策を短期間のうちに分かりやすく提示していただいた部分も大きかった。

業務改善については、なぜ行うのかという意味を児童生徒に向き合う時間の確保と記しているのが分かりやすい。今後、業務を効率化した結果、どのように児童生徒と向き合うことができるようになったか、結果を知ることができると良い。

（高嶋）業務改善は一部の職員だけで取り組むものではないので、今後も全校体制で推進していく。

イ　学校運営協議会（コミュニティスクール）について

（評議員）男女共同参加型の社会において、女性が 16 名中２名は少ない印象がある。出産・育児を経験してきた方の意見は貴重なので、増やすことはできないか。

（高嶋）構成員は任期があるので、今後、検討する。

なお、構成員は地域の代表となるので、構成員の皆様に地域の方々の意見を集約していただき、いただいた意見を取り組みに反映することができるような協議会にしていきたいと考える。

6　説明及び評議

（1）令和５年度（2023 年度）学校経営方針（グランドデザイン）について、資料を基に校長より説明

（2）質疑応答（有・無）

（評議員）分かりやすいテーマで記されている。

つながりは、双方向でないといけない。お互いに意見したり、情報共有したりすることが大切で、双方向の理解が基盤にあると感じる。新たな目標に対して急にシフトするので

はなく、今までの積み重ねの上にあることを理解し、実践してほしい。

（評議員）分かりやすい内容で作成されている。校内に掲示してあるグランドデザインは、本施設職員も見ていて、学校評価の際、参考にしていた。次年度以降も多くの方々が見ることができる場所に掲示してほしい。

７　全体をとおして

（評議員）学校評価について、教職員が細かく評価をしているが、会議の意義の評価が低い。もう少し評価が上がると良い。

（高嶋）学校評価、学部・分掌等の年度末反省など、様々な評価の内容を精査し、推進部署で調整しながら次年度の計画を立案している。今回御評議いただいた内容を次年度に生かすことができるよう学校全体で取り組んでいく。

（評議員）児童福祉法が改正され令和６年４月から施行される。改正後は、子どもの意思表示が重要となる。子どもが自分の意見を表出することができるよう、より実態にあった支援が必要となると考える。

（高嶋） 教育活動の中で、教師が児童生徒に一方的に伝えるのではなく、適切な実態把握の中から、児童生徒自身が自ら発信したり、分かった、もっとやりたいと表出したりすることができるような学習活動に取り組んでいく。